



# 青き楓

島高だより  
令和3年1月号  
(通巻第178号)

長崎県立島原高等学校  
編集：研修広報部

## 校長室から

## 記念の品

校長 渡邊 孝経

誰でも何かの記念に、記念品を贈られたり、贈ったり、また、自分で作ったり、買ったりするのではないだろうか。

創立120周年を記念して「日本一記念碑」を本年度建立した。「文武両道」を校是やモットーにしている高校は全国に数え切れないほどあるが、本校は「実」の部分でも成し遂げている数少ない高校であると思う。また、日本一になるということが、どれだけ大変で偉業なのかということ、形として残すことができたのではないかと考えている。その偉業を当人、関係者が後に見るとき、当時のことを思い返すのはもちろんだが、在校生を含め、これからの島高生にも先輩たちに負けないという気力を奮い立たせてもらいたいと思っている。

さて、必勝祈願として千羽鶴を贈ることはよく見かけることであるが、折り鶴については、室町時代には縁起物とされていたそうである。鶴は昔から瑞鳥(めでたい鳥)とされてきたので、その鶴を折ることが幸運につながると考えられたのも自然の流れだったそうである。(参照:「日本人の美しい和のふるまい」藤野紘) 共通テスト100日前集会時にPTAから受験生におくられる千羽鶴は、まさに必勝祈願である。

私ごとであるが、私が教員採用試験に合格した大学4年生の冬、父親から今まで使ったことがないような高級剣道用具を買ってもらった。

体育の教員であり、選手としても頑張ろうとしていた私にとって、心踊らせる物であったように思う。修理をしながら使い続け、今でも持っている。当然消耗品ではあるが、捨てることは出来ない。新任の時から身体のサイズが変わり、今では使えないのだが、見るだけで当時の新鮮な気持ちを思い出すことが出来る。

初めて玉龍旗全国大会で優勝したとき、大学の後輩から「優勝インタビューでテレビに映っていましたが、優勝監督がそんな安っぽい時計ではかっこわるいですよ」と言われた。今考えたら、本当に失礼な後輩である。しかし、その時は「そうかなあ」と思い、そう言われた直後、その後輩と一緒に、私にとっては高価すぎるくらいの腕時計を購入した。玉龍旗で優勝なんて一生に一度だろうと思い、生涯の記念にと自分に言い聞かせての購入であった。それがなんと、その後のインターハイでも優勝してしまった。それ以来全国大会では必ずはめている。一種の願掛けみたいなものである。

このように、誰にでも記念の品という物があるだろう。子供が生まれたとき、学校に入学したり卒業したとき、結婚したとき、賞をもらったとき、などなど。過去の出来事を思い起こし、同時にその時の思いも甦らせ、心を新たにすることができる。まさに、人間にしか出来ない習慣であろうと思う。

## 2月の主な行事予定

3日(水) 前期入学者選抜 生徒自宅学習	25日(木) 週休日振替(2/27)
4日(木) 生徒自宅学習	国公立大学前期試験
6日(土) 土曜講座(1・3年)	26日(金) 国公立大学前期試験
進研マーク模試(2年 ~7日)	27日(土) 大掃除・式場設営
10日(水) 学年末考査時間割発表	28日(日) 卒業式予行、同窓会入会式
部活動休止(1・2年 ~21日)	表彰式・記念品贈呈式
13日(土) 土曜講座(3年)	創立120周年記念式典
17日(水) 学年末考査(1・2年 ~22日)	
23日(火) 補習日(3年)	3月1日 第73回卒業証書授与式

## 大学入学共通テスト

73回生196名が、1月16日・17日に実施された「大学入学共通テスト」を長崎県立大学シーボルト校で受験してきました。前日の15日に行われた出陣式では、金子PTA会長様、渡邊校長先生から激励の言葉をいただき、出発の際にはPTAの皆さま、在校生の見送りを受け、勇気づけられました。本当にありがとうございました。

73回生はコロナウィルスによる休校や県高校総体、各種全国大会の中止など昨年度には予想もできなかった状況の中にあっても、懸命に学習や部活動、学校行事に取り組んできました。現在は出願校を決定し個別学力検査に向けて、特別編成授業に取り組んでいます。「何がなんでも合格する」「負けてたまるか」という強い気持ちをもって第1志望校合格に向けて突き進んでいきます。最後まで応援よろしくお願いします。



## 地学研究発表会

令和2年12月23日理数科の地学研究発表会が開かれた。今年のテーマは「島原城ジオパーク」である。2021年は島原城築城400年にあたる。そこで島原城に関連したジオサイトを紹介するというテーマに取り組んだ。石垣の積み方に注目した発表では、野面積(のづらづみ)、打込接(うちこみはぎ)、切込接(きりこみはぎ)、算木積み(さんぎづみ)などが紹介された。これらの石垣は主に雲仙火山の石材が使われていた。城内周辺で見られる湧水に関する発表では、第一中学校横の「御用御清水」など、あまり観光化されていない湧水の紹介があった。島原高校の駐輪場には三の丸の石垣が残っており、普段の生活の中でお城の遺跡を利用していることを改めて知らされた。今回の発表で島原高校の周辺にはお城の名残りが多数見られた。生徒が自ら掘り起こした多くの「島原城ジオサイト」を、今後は多くの人に紹介してほしい。

